

幼稚園教員の資質能力に関する研究 幼稚園教諭，保護者，園長の力量観の比較から

藤尾 淳子 古川 雅文 浅川 潔司
(明石市立魚住幼稚園) (兵庫教育大学) (兵庫教育大学)

幼稚園教諭が自らどのような資質能力が重要と捉えているかという視点から，幼稚園教諭の力量観の構造を検討した。面接による予備調査から作成した39の質問項目からなる質問紙を用い，96名の幼稚園教諭，16名の幼稚園長，および140名の保護者を対象に調査を行った。その結果，「専門的資質能力」「実践的専門技術」「連携・協力」「理想的教師像」「学級経営力」「人間性」の6因子を抽出した。幼稚園教員，保護者，園長が共通して重要としていた資質能力は，「人間性」「理想的教師像」に含まれる項目が多かった。3者間の比較では，幼稚園教員と園長が「専門的資質能力」「実践的専門技術」といった専門家としての能力や「連携・協力」を保護者より重視していた。保護者は，「学級経営力」に教員や園長よりも重視している項目が見られた。園長は，教員の専門的資質能力，専門的技術に加えて，理想的教師像や園運営のための連携・協力を重視している傾向が見られた。

キーワード：幼稚園教員，力量観，幼児教育，資質能力，保護者

藤尾淳子：明石市立魚住幼稚園・教諭，〒674-0074 明石市魚住町清水 570番地 明石市立魚住幼稚園，
E-mail: wistaria_j@nifty.com

古川雅文：兵庫教育大学大学院・基礎教育学系・教授，〒673-1421 兵庫県加東市山国2007-109
学校教育研究センター，E-mail: kogawa@hyogo-u.ac.jp

浅川潔司：兵庫教育大学大学院・臨床・健康教育学系・教授，〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1，
E-mail: kasa@hyogo-u.ac.jp

Teacher's Perception on Competencies in Early Child Education: Comparative Analysis among Kindergarten Teachers, Directors, and Parents

Junko Fujio , Masafumi Kogawa, and Kiyoshi Asakawa
(*Uozumi Kindergarten*)(*Hyogo University of Teacher Education*)

The purposes of this research are to examine the structure of the teacher's perception on competencies as kindergarten teacher, and to compare the value systems of kindergarten teachers, directors, and parents. According to categorization interview data for 10 kindergarten teachers, the questionnaire consists of 39 items that correspond to kindergarten teacher's competencies. Sixty nine kindergarten teachers, 16 directors, and 140 parents participated in the investigation and evaluated the importance of each of 39 competencies. Exploratory factor analysis finds six factors: Professional competencies and character, Teaching skills, Communication and collaboration ability, Ideal teacher image, Class management, Positive personality. Many participants emphasize the importance of items that are included in the Positive personality factor, such as "smile" and "loving children" and the Ideal teacher image. Compared to parents, teachers and directors put importance on the factors of Professional competencies and character, Teaching skills factor, and Communication and collaboration. Parents emphasize the Class management factor compared with parents. Directors put importance on the items of teachers' collaboration behavior from the viewpoint of kindergarten management.

Key Words : kindergarten teachers, perception on competences, early child education, competencies and characters, parents

Junko Fujio: Teacher, Uozumi Kindergarten, 570 Shimizu, Uozumi-chom Akashi-city, Hyogo 674-0074 Japan. E-mail: wistaria_j@nifty.com

Masafumi Kogawa : Professor, Fundamental Education, Hyogo University of Teacher Education, 2007-109 Yamakuni, Kato-city, Hyogo 673-1421 Japan. E-mail: kogawa@hyogo-u.ac.jp

Kiyoshi Asakawa : Professor, Clinical, Health and Special Support Education, Hyogo University of Teacher Education, 942-1 Shimokume, Kato-city, Hyogo 673-1494 Japan. E-mail: kasa@hyogo-u.ac.jp

問題と目的

教員にどのような資質能力が必要かということについては、これまでいくつもの研究が行われている。それらの研究の焦点は多様であるが、大きく分けて、2つの流れがあるようにおもわれる。その一つは、教員自身や保護者の資質能力に対する認知から、その構造や重要度などを分析したもの（例えば、古川・長澤・横川・福本・畑野・河相・中須, 1999; 前田, 2003）この種の研究では、「力量観」という語が使われることもある。

またもう一つのアプローチとして、近年、主として教員養成の観点から、これらの資質能力のスタンダードを作成しようとする研究も多くなっている（例えば、別惣・渡邊・長澤・中田・加藤・上西, 2009; ノイマン・渡邊, 2009 など）。本研究は、前者に分類されるが、このようなスタンダード研究にも基礎的参考資料を提供できるものとする。

なお、文部科学省においては、「資質能力」という用語がよく使われ、「専門的職業である『教職』に対する愛着、誇り、一体感に支えられた知識、技能等の総体を意味する」と定義され、「『素質』とは区別され、後天的に形成可能なもの」であるとしている（教育職員養成審議会, 1997）。これに対して、「教師の力量」という語も古くから使われてきた。この語は、「資質能力」よりも、より教育実践の専門的知識や技能に中心化した感が強い。しかし、これも比較的ということであり、両者に厳密な違いがあるわけではない。したがって、本研究では、資質能力という語を中心に使用するが、力量観という場合は、専門的知識・技能を中心とした資質能力に対する教員等の認知を指すものとする。

保育者の資質能力に関しては、上田（2003）が、それまでの研究や文部科学省の幼稚園教育要領・保育所保育指針の示す力量観、および文部科学省の報告書を参考に、保育者の力量項目を作成し、幼稚園の教員と保育所の保育者に質問紙調査を行っている。しかし、この調査で設定された15項目は、理念的な面から導き出されたものが中心であり、幼稚園の教員からみた力量や資質能力についての側面を必ずしも十分に汲み取っていない可能性がある。また、いくつかの幼稚園教員の力量観および資質能力に関する研究がこれまでになされているが（寅丸・濱名・濱名・森田・矢田, 2008など）、その数は少なく、これまでに十分になされているとは言い難い。

古川他（1999）は、小・中学校教員、および教育委員会等の教育関係者を対象に、これからの教師に必要な資質能力に関して調査している。ここでは、教員や教育関係者からの視点を取り入れ、ボトムアップ的に資質能力を捉えようというアプローチが取られている。しかし、この調査は、幼稚園を対象としたものではない。そこで本研究は、これらの研究をふまえ、幼稚園教員が

考える資質能力について調査・再考するものである。加えて、幼児教育の場である幼稚園の人的環境を考えたとき、その重要な構成要素である2種類の人々の資質能力観を調査し教員のそれと比較する。すなわち、管理職である園長と、個々の子どもの保護者の期待する資質能力と比較することにより、異なる立場からの資質能力観の違いを明らかにする。

予備調査

目的 質問紙調査の項目作成

調査対象者 兵庫県内のある市立幼稚園の教諭9名、および園長1名の計10名。

質問内容および手続き 調査対象者には「幼稚園論に必要な力量、能力にはどのようなものがありますか」という質問に自由に答えてもらった。面接は教員ごとに個別に行い、それぞれの面接時間は30分程度であった。記録は筆記によった。

結果および考察 回答を箇条書きでまとめ、カードにした。その後、3名の現職幼稚園教諭の合議によって、先行研究（古川・長澤・横川・福本・畑野・河相・中須, 1999; 上田, 2003）のカテゴリーについて、内容が類似しているものをまとめるなどして、29の分類基準を設定した。この分類基準を参考として、3名で協議しながら、面接記録のカードの分類、整理を行った。その過程で、既存の質問項目の内容を細分化したりし、既存のカテゴリーに属さない項目を追加し、必要性を感じない項目を削除したりして、最終的に39の質問項目とした。個々の質問項目については、本調査の結果に示した。これらの質問項目の全体的な構図としては、古川他（1999）の12の資質能力と類似していたが、新たに、実践的・専門的知識や技術に関する具体的な内容を含み、「笑顔がある」のように、幼稚園教育に関わる人々の生の表現による項目を含んでいた。この点に、本研究における質問項目の特徴があるといえる。

本調査

方法

調査対象者 兵庫県内の公立幼稚園教員96名、幼稚園長16名、保護者140名

調査内容 予備調査で作成した『幼稚園教員の資質能力に関する態度尺度』39項目について、幼稚園教員にとっての力量や資質としてそれぞれの項目がどの程度重要であるかの評定を求めた。評定のための選択肢は、「4 非常に重要である」「3 わりに重要である」「2 少し重要である」「1 あまり重要でない」の4段階とし、順に直線上に配置して、重要度を示した。さらに39項目中特に重要と思う項目、上位3位をあげてもらい、最後には自由記述を求めた。

また、フェイスシート上で、性別、年齢、属性（幼稚園長、幼稚園教諭、幼稚園助教諭、保護者の別）、教職経験年数（教員のみ）を尋ねた。

調査手続 幼稚園教員については、幼稚園の教職員関係者に配布と回収を依頼し、一部は、著者が直接配布、回収したのもある。また、保護者についても、著者が直接配布し、回収した。

調査時期 2005年6月～9月

結果および考察

幼稚園教員の資質能力の重要度に関する質問の各項目における選択肢について、各選択肢に付けた数字をその得点とした。すなわち、「非常に重要である」を4点、

「わりに重要である」を3点、「少し重要である」を2点、「あまり重要でない」を1点とした。

幼稚園教員の資質能力の因子構造 幼稚園教員の認知する幼稚園教員に必要な資質能力の要因と構造を検討するために、データに欠損値のない幼稚園教員86名（園長含む）のデータに基づき、項目間の相関行列に基づく因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った。なお、ここでは、幼稚園教育の専門家である教員と園長が認知する資質能力を分析するために、保護者のデータはあえて入れなかった。固有値の変動と因子の解釈可能性を検討しながら、探索的に因子数を検討し、6因子解を採用した。

Table 1-1 幼稚園教員の資質能力に関する項目の因子負荷量（パターン行列）

	因子					
	1	2	3	4	5	6
016 他の学問に関心をもち、研究を深める	.881	.079	-.074	.031	-.188	-.050
033 情報機器の操作、情報選択能力	.774	.058	-.016	-.058	.022	-.130
019 豊かな生活体験に基づく指導力	.715	-.062	.047	-.011	-.006	.095
015 指導案の作成、教材研究、開発能力	.688	.049	-.076	.319	-.041	-.143
034 新しい時代に対応する保育課題の探求	.673	-.050	.024	-.149	.149	.091
027 カウンセリングの知識・技能	.568	.079	.056	.012	.068	-.083
022 若々しく、躍動している	.541	.204	-.033	.034	-.049	.152
018 遠く高潔で、品性をもった人間性	.493	.306	-.066	-.098	.053	.043
031 子ども理解を基盤に保育計画を立てる	.350	-.130	.321	.064	.243	-.061
04 幅広い教養と社会性	.346	.069	.139	.331	-.101	.096
035 子どもの意欲を高める能力	.253	-.046	.010	.146	.156	.212
038 絵本・お話等の専門的知識、技術	-.060	.817	.059	.031	.002	.043
010 ピアノ・手遊び・歌等の専門的技術	-.232	.793	.127	.273	.102	-.173
023 運動遊び・集団遊び等の専門的技術	.148	.715	.015	-.184	.028	.130
020 絵画・制作等の専門的知識、技術	.305	.679	.013	-.012	-.131	-.007
026 自然・花・虫などの専門的知識、技術	.265	.525	-.022	.054	-.115	.109
013 子どもの流行に関心、ユーモア	.030	.408	.060	-.047	.311	.065
014 表情、話術、文章力等、表現力	.312	.359	-.258	.200	.199	.063
02 保護者との連携を図りながら育てる	-.168	.174	.631	.106	-.119	-.005
036 地域との連携を図りながら育てる	.047	.129	.584	-.156	.129	.047
029 同僚と協力しながら保育集団の質向上	-.055	-.029	.572	.226	-.093	.173
017 自分の役割を考えて、園運営を支える	.481	.052	.566	-.137	-.030	-.323
03 子どもの目線に立つことができる	.049	-.029	.468	.003	-.104	.322
037 他者の意見を受け入れ、柔軟な考え	.008	-.106	.392	.135	.109	.075
08 子どもの心情理解し、生活への援助	.029	-.035	.025	.570	.081	.035
09 教育実践に関する研修、研究、研鑽	.293	.028	.242	.454	-.120	-.065
06 あらゆる面で子どものモデルとなる	-.034	.126	.145	.429	.105	-.008
01 子どもの行動を受容、認める態度	-.161	-.085	.276	.359	.162	.065
011 子どもが扱いやすいように環境構成	.044	.145	.254	.348	.172	-.144
07 心身が健康である	-.086	.186	.005	.313	-.069	.093
039 子どもを集団を把握し、まとめる	-.163	.167	.001	-.025	.671	.044
030 一人ひとりの子どもを評価する能力	.095	-.114	.216	.007	.521	-.064
012 子どもの行動に、毅然とした態度	.010	-.045	-.200	.321	.493	-.057
021 子どもの言動に、的確な判断、行動力	.281	-.159	-.126	.284	.286	.036
028 子どもが好き	-.083	.003	.020	.021	-.004	.669
05 笑顔がある	-.130	.192	.012	.034	-.010	.609
025 保育を振り返り、新たな保育を模索	.158	-.175	.262	.114	-.027	.398
024 保育に対し、熱意や積極性	.081	.103	.078	-.071	.264	.270
032 人と関わるコミュニケーション能力	.194	.044	.129	.150	.079	.243

Table 1-2 因子間相関行列

因子	1	2	3	4	5	6
1	-					
2	.595	-				
3	.649	.414	-			
4	.603	.398	.541	-		
5	.498	.317	.514	.396	-	
6	.359	.287	.331	.249	.437	-

Table 1-1は、各因子における因子負荷量を示したものである。回転前の累積因子寄与率は55.6%であった。第1因子は、「直接実践とは関係ないが、他の学問に関心をもち、研究の視野を広げながら研究を深める」「情報機器の操作、インターネットなどの利用、情報選択などの能力をもっている」「教師自身の豊かな生活体験とそれに基づく指導力をもつ」など、教育実践の基盤となる資質能力に関する項目が高い負荷量をもつので、「専門的資質能力」因子と命名した。

第2因子には、「絵本・お話しなどの専門的知識、技術をもつ」「ピアノ・手遊び・歌などの専門的技術をもつ」「運動遊び・体操・集団遊びなどの専門的知識、技術をもつ」のように、専門的知識・技術に関する項目の負荷量が高い。そこで第2因子を「実践的専門技術」因子と命名した。

第3因子に高負荷を示した項目は、「保護者との連携を図りながら子どもを育てる」「地域との連携を図りながら子どもを育てる」「同僚と協力しながら保育集団の質を高める」であり、「連携・協力」因子と命名した。

第4因子には、「子どもの心情を適切に理解し、遊び生活への援助を行う」「幼稚園での教育実践に関する研修研究を行い、自己研鑽に励む」「あらゆる面で子どもの見本（モデル）となる」などの項目の負荷量が高く、「理想的教師像」と命名した。

第5因子に高負荷を示したのは、「子どもの集団を把

握し、まとめる」「一人ひとりの子どもを評価する能力がある」「子どもの言動に対して、的確な判断力、臨機応変な行動力をもつ」であり、「学級経営力」因子と命名した。第6因子では、「子どもが好きである」「笑顔がある」という項目が高負荷量を示し、「人間性」因子と命名した。

重要視される資質能力

教員、保護者、園長の評定した重要度得点に基づき、各項目の平均値をそれぞれ求めた。また、特に重要と思う上位3項目について、一番目に挙げた項目に3点、2番目に2点、3番目に1点を与え、それぞれ加算し、順位得点とした。

各項目について、教員の平均値と順位得点を基本にして、比較的重要と考えられていた項目の平均値の順位、および順位得点の順位をTable 2に示した。この表にみられるように、重要視している項目について、10位以内ということでみていくと、若干の違いがあるものの、教員と保護者にかなりの共通性がみられる。

教員・保護者・園長ともに重視していたのは、「子どもの行動を受容し、認める態度をもつ」「適切な心情理解と遊び・生活の援助」といった「理想的教師像」因子に含まれるもののものである。さらに、「心身が健康である」「保育への熱意、積極性」「的確な判断力と臨機応変な行動力」といった項目は、因子分析で抽出された因子には含まれないが、三者とも重要な項目と認識している。

教員と保護者が比較的重要視していた項目として、「子どもが好きである」「笑顔がある」といった、「人間性」因子に含まれるものが挙げられる。

教員と園長が重視していたのは「保護者との連携を図る」という項目であった。園長のみが重視していたのは、「教育実践に関する自己研鑽」「園運営において全体を見通し支える」であった。

Table 2 比較的重要視されていた項目の平均得点と順位得点

項目	平均値の順位（平均値）			重要順位（順位得点）		
	教員	保護	園長	教員	保護	園長
28 子どもが好きである (人間性)	4 (3.74)	1 (3.88)	6 (3.86)	1 (73)	1 (150)	
7 心身が健康である	5 (3.74)	6 (3.66)	3 (3.93)	2 (62)	6 (54)	1 (17)
1 子ども行動を受容し認める (理想像)	3 (3.75)	7 (3.65)	5 (3.93)	3 (53)	7 (51)	1 (17)
8 適切な心情理解と遊び・生活の援助 (理想像)	8 (3.71)	9 (3.59)	(3.79)	4 (48)	8 (44)	5 (6)
24 保育への熱意、積極性	9 (3.68)	3 (3.77)	1 (4.00)	5 (37)	4 (73)	3 (9)
2 保護者との連携を図る (連携)	1 (3.78)	(3.43)	4 (3.93)	7 (28)		8 (4)
21 的確な判断力と臨機応変な行動力	2 (3.75)	4 (3.69)	2 (3.93)	6 (30)	3 (80)	7 (5)
5 笑顔がある (人間性)	6 (3.72)	2 (3.85)	(3.71)	8 (27)	2 (91)	
3 子どもの目標に立てる (連携)	7 (3.72)	5 (3.67)	7 (3.86)	9 (22)	5 (67)	8 (4)
9 教育実践に関する研究と自己研鑽 (理想像)	(3.21)	(2.85)	(3.79)			3 (9)
17 園運営において全体を見通し支える (連携)	(3.14)	(2.59)	10 (3.79)			5 (6)
35 子どもの意欲を高める能力	10 (3.65)	8 (3.59)	(3.57)		9 (40)	

なお、平均値から、相対的に重要度を低く認知していたのは、教員では、「情報機器・インターネットの利用能力」「他の学問に関心をもち視野を広げる」「運動遊び・体操・集団遊びなどの専門知識」であり、保護者では、「情報機器・インターネットの利用能力」「他の学問に関心をもち視野を広げる」「絵画・製作などの専門知識・技術」であり、園長では、「自然・花・虫などの専門知識・技術」「子どもの流行への関心とユーモア」「情報機器・インターネットの利用能力」であった。特に、教員と保護者では、直接、実践に結びつかない、「専門的資質能力」に属する情報リテラシーや学問への関心の重要度が低く認知されていることが特徴的である。

項目別にみた教員、園長、保護者の差異

教員、園長、保護者それぞれの各項目の評定平均値について、対象者群間の1要因分散分析を行った。また、有意な主効果の得られた項目については、多重比較(LSD法)を行った。

因子分析で得られた因子ごとに、群間差を見てゆく。第1因子(専門的資質能力)に高い負荷量を示した項目については、Table 2-1 に平均値と統計的検定結果を示した。9項目中6項目で、園長が教員および保護者よりも平均値が高い。また、残りの3項目についても、保護者が他の2群より低いという結果であった。

第2因子(実践的専門技術)の項目についても、園長が教員または保護者より高得点であったものが7項目中4項目ある(Table 2-2)。また、保護者は、5項目で園長または教員よりも平均値が低い。これらの結果から、「教える」ことに関する専門的資質能力や専門的知識・技術については、専門家である教員や園長のほうが保護者よりも重視している傾向がうかがえる。

第3因子(連携・協力)については、Table 2-3に示した。ここでも、6項目中4項目で、園長、教員よりも保護者のほうが低くなっている。このような傾向は、中学校における保護者と教員の関係について調査した横江(2009)においても報告されており、幼稚園と中学校という校種を超えた共通性がみられる。

さらに、第4因子(理想的教師像)においても、4項目中2項目で園長や教員のほうが保護者より平均値が高かった。ここから、注目されるのは、第5因子(学級経営力)において、園長や教員が保護者よりも高いという項目が見られず、保護者のほうが園長や教員より高いという全項目中ただ一つの例外的な項目「子どもの集団を把握し、まとめる」がみられることである(Table 2-5)。これらは、小・中学校では学級経営や生徒指導とよばれる分野に該当すると考えられ、こうした側面への保護者から教員への期待が高いことがうかがわれる。これは、

Table 2-1 「専門的資質能力」因子に含まれる項目についての群ごとの平均値(カッコ内はSD)

項 目	平均値			F値	自由度	有意差	多重比較
	教員	保護者	園長				
16 直接実践とは関係ないが、他の学問に関心をもち、研究の視野を広げながら研究を深める	2.65 (.67)	2.29 (.79)	3.21 (.43)	13.10	2/206	**	園>教>保
33 情報機器の操作、インターネットなどの利用、情報の選択力などの能力をもっている	2.53 (.69)	2.11 (.80)	3.00 (.39)	13.33	2/206	**	園>教>保
19 教師自身の豊かな生活体験とそれに基づく指導力をもつ	3.33 (.71)	3.01 (.77)	3.57 (.51)	6.75	2/206	**	園≒教>保
15 指導案の作成、教材研究、開発能力などの保育実践の技術がある	3.11 (.76)	2.57 (.83)	3.71 (.61)	19.79	2/206	**	園>教>保
34 新しい時代に対応する保育の課題に関心をもち、探求する	3.03 (.73)	2.85 (.70)	3.57 (.51)	7.28	2/206	**	園>教≒保
27 カウンセリングの知識・技能を身につける	3.03 (.69)	2.58 (.74)	3.29 (.47)	13.08	2/206	**	園≒教>保
22 若々しく、躍動している	2.89 (.74)	2.59 (.90)	3.5 (.52)	9.1	2/206	**	園>教>保
18 温かく高潔で、品性をもった人間性をもつ	3.07 (.74)	3.02 (.84)	3.57 (.51)	3.11	2/206	*	園>教≒保
31 子どもの理解を基盤に保育の計画(カリキュラム)を立てる	3.39 (.70)	3.04 (.75)	3.71 (.47)	9.05	2/206	**	園≒教>保

*: p<.05, **: p<.01

園:園長, 教:教員, 保:保護者

Table 2-2 「実践的専門技術」因子に含まれる項目についての群ごとの平均値

項目	平均値			F値	自由度	有意差	多重比較
	教員	保護者	園長				
38 絵本・お話しなどの専門的知識、技術をもつ	2.92 (.73)	2.76 (.77)	3.29 (.61)	3.49	2/206	*	園>保
10 ピアノ・手遊び・歌などの専門的技術をもつ	2.94 (.67)	2.81 (.76)	3.36 (.63)	3.81	2/206	*	園>教>保
23 運動遊び・体操・集団遊びなどの専門的知識、技術をもつ	2.78 (.72)	2.78 (.75)	3.29 (.61)	3.12	2/206	*	園>教>保
20 絵画・制作などの専門的知識、技術をもつ	2.83 (.75)	2.47 (.89)	3.14 (.36)	7.23	2/206	**	園>教>保
26 自然・花・虫などの専門的知識、技術をもつ	2.88 (.75)	2.52 (.76)	2.93 (.47)	6.09	2/206	**	教>保
13 子どもの流行に関心をもったり、ユーモアをもったりして親密感を生じさせる	2.83 (.75)	2.97 (.73)	3.00 (.78)	0.81	2/206	n.s.	
14 表情、話術、文章力などの表現力がある	3.31 (.66)	3.14 (.77)	3.50 (.52)	2.34	2/206	n.s.	

*:p<.05, **:p<.01, n.s.:non-significant
園：園長，教：教員，保：保護者

Table 2-3 「連携・連絡」因子に含まれる項目についての群ごとの平均値

項目	平均値			F値	自由度	有意差	多重比較
	教員	保護者	園長				
2 保護者との連携を図りながら子どもを育てる	3.78 (.44)	3.43 (.59)	3.93 (.27)	13.44	2/206	**	園>教>保
36 地域との連携を図りながら子どもを育てる	3.25 (.75)	3.06 (.69)	3.57 (.51)	4.32	2/206	*	園>保
29 同僚と協力しながら保育集団の質を高める	3.60 (.57)	3.31 (.64)	3.71 (.47)	6.65	2/206	*	園>教>保
17 園運営において、自分の役割も考えて行動し、全体を見通して運営を支える	3.14 (.77)	2.59 (.88)	3.79 (.43)	19.93	2/206	**	園>教>保
3 子どもの目線に立つことができる	3.72 (.45)	3.67 (.54)	3.86 (.36)	1.03	2/206	n.s.	
37 他者の意見を受け入れ、柔軟な考えができる	3.55 (.56)	3.44 (.63)	3.79 (.43)	2.51	2/206	n.s.	

*:p<.05, **:p<.01, n.s.:non-significant
園：園長，教：教員，保：保護者

Table 2-4 「理想的教師像」因子に含まれる項目についての群ごとの平均値

項目	平均値			F値	自由度	有意差	多重比較
	教員	保護者	園長				
8 子どもの心情を適切に理解し、遊び・生活への援助を行う	3.71 (.49)	3.59 (.56)	3.79 (.43)	1.80	2/206	n.s.	
9 幼稚園での教育実践に関する研修・研究を行い、自己研鑽に励む	3.21 (.71)	2.85 (.77)	3.79 (.43)	13.51	2/206	**	園>教>保
6 あらゆる面で子どもの見本（モデル）となる	3.29 (.57)	3.06 (.80)	3.57 (.65)	4.71	2/206	**	園>教>保
1 子どもの行動を受容し、認める態度をもつ	3.75 (.44)	3.63 (.53)	3.93 (.27)	3.02	2/206	n.s.	

**：p<.01, n.s.:non-significant
園：園長，教：教員，保：保護者

他の研究においても同様の傾向が見られる（寅丸他, 2008; 横江, 2009）。

そして, 第6因子（人間性）においても, 群間差がみられない（Table 2-6）。すなわち, 保護者は, 専門的

な能力, 知識, 技術については専門家である教員よりも重要度を低く見積もっているが, 人間性や学級経営力には教員と同じくらい重きを置いていると考えられる。

Table 2-5 「学級経営力」因子に含まれる項目についての群ごとの平均値

項 目	平均値			F値	自由度	有意差	多重比較
	教員	保護者	園長				
39 子どもの集団を把握し, まとめる	3.36 (.66)	3.57 (.56)	3.14 (.53)	4.92	2/206	**	保>教<園
30 一人ひとりの子どもを評価する能力がある	3.36 (.76)	3.46 (.69)	3.50 (.65)	0.47	2/206	n.s.	
12 子どもの行動に対して, 必要に応じて毅然とした態度をとる	3.31 (.78)	3.53 (.58)	3.57 (.65)	2.83	2/206	n.s.	

** : $p < .01$, n.s. : non-significant
園 : 園長, 教 : 教員, 保 : 保護者

Table 2-6 「人間性」因子に含まれる項目についての群ごとの平均値

項 目	平均値			F値	自由度	有意差	多重比較
	教員	保護者	園長				
28 子どもが好きである	3.74 (.60)	3.88 (.42)	3.86 (.36)	1.95	2/206	n.s.	
5 笑顔がある	3.72 (.58)	3.85 (.35)	3.71 (.47)	2.65	2/206	n.s.	
25 保育を振り返り, 反省することによって新たな保育を模索する	3.60 (.55)	3.48 (.62)	3.79 (.43)	2.23	2/206	n.s.	

n. s. : non-significant

まとめ

本研究の結果, 次のことが明らかになった。

- (1) 先行研究の検討と幼稚園教員の面接から構成した質問紙から, 「専門的資質能力」「実践的専門技術」「連携協力」「理想的教師像」「学級経営力」「人間性」の6因子を抽出した。
- (2) 「人間性」や「理想的教師像」に含まれる項目は, 教員, 保護者, 園長の三者とも重要視している。また, 本研究で抽出した因子には含まれなかったが, 「心身が健康である」「保育への熱意・積極性」「的確な判断力と臨機応変の行動力」の項目は, 三者から重要視されている。
- (3) 園長は「専門的資質能力」「実践的専門技術」に含まれる項目を教員や保護者よりも重要視している。教員は, 園長ほどではないが, 同様の傾向をもつ。
- (4) 教員や園長は「連携・協力」を保護者以上に重要視している。
- (5) 保護者は, 教員の「子ども集団の指導力」を教員や園長以上に重要であると感じている。

引用文献

- 別惣淳二・渡邊隆信・長澤憲保・田中高俊・加藤久恵・上西一郎 (2009). 小学校教員養成スタンダードに基づく実習到達基準から捉えた実習成果と課題 () 実地教育 に注目して 兵庫教育大学学校教育研究センター紀要「学校教育学研究」, 21, 9-21.
- カール・ノイマン・渡邊隆信 (2009). 「良い」教師「資質・能力(コンピテンス)のある」教師 教職の専門性に関するドイツならびに国際的な議論について 教育実践学論集, 10, 27-37.
- 古川雅文・長澤憲保・横川和章・福本謹一・畑野裕子・河相善雄・中洩正堯 (1999). 教師に必要な資質能力に関する研究 (1) 現職教員が認知する資質能力の要因とその構造の検討 兵庫教育大学研究紀要, 19 (第1分冊), 173-181.
- 教育職員養成審議会 (1997). 教養審第1次答申
- 前田一男 (2003). 「教師に必要な力量」観の変化とその構造 立教大学教育学科研究年報, 47, 112-120.
- 寅丸 尚恵・濱名 浩・濱名 陽子・森田 健・矢田 正一 (2008). 幼稚園教師に求められる資質能力 幼稚園予備調査の結果分析 教育総合研究叢書, 1, 35-61.
- 上田淑子 (2003). 保育者の力量観の研究 幼稚園と保

育所の保育者の比較検討から 保育学研究, 41(2),
24-31.

横江和彦 (2009). 中学校教師に対する保護者の信頼感
の研究 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 修士論
文

謝 辞

本研究を進めるにあたり多大なご協力をいただいた明
石市立江井島幼稚園の先生方をはじめ, 調査にご協力い
ただいた皆様に深く感謝申し上げます。また, 兵庫教育
大学基礎教育学系佐藤哲也准教授にも調査実施にご協力
いただきました。感謝申し上げます。

(2009.9.1受稿, 2009.11.19受理)